

# ゆい 結 通 信

## 共感の輪を広げよう

牧野直子

### 20世紀から21世紀へ

2つの世界大戦を経験した20世紀が終わり、21世紀を迎えたとき、平和な時代の幕開けを期待していましたが、残念ながらその期待は裏切られました。2001年9月11日、アメリカで同時多発テロが起き、世界中を震撼させました。そして、その後のアフガニスタン報復戦争、イラク戦争へと突き進んでいったのです。

「戦争はなぜ起きるのか」「どうしたら戦争を終わらせることができるのか」私たちは学校でそのことを学びませんでした。「結みのお」では、昨年「結サロン」で自主的な学び合いの機会を持つことができました。また、毎年恒例となっている「みのおピースフェスタ」では「明日へ」という映画の自主上映会が開催され、「みのおピースリボンの会」もメンバーとして関わりました。映画の中で「戦争は罪悪である」と語る住職の言葉が忘れられません。

### 戦争はなぜ起きるのか

戦争にはいつも大義名分があります。「制裁として」「世界平和のために」…でも結局は殺し合いです。正しい戦争などあり得ない。人を殺していい理由はないはずです。それでも今、日本では「北朝鮮の脅威」がまかり通り、若い人たちの間で「武装するのは仕方がない」という声が大きくなってきているそうです。年明けとともに改憲の動きもいよいよ本格的になることでしょうか。戦争の足音が近づいているのを感じているのは私だけではないと思います。

だいたいなことは自分で考えるということです。アメリカの議会で、同時多発テロの後、ただ一人、アフガニスタン報復戦争に反対票を投じた女性議員、バーバラ・リーさんの存在は大きな勇気を与えてくれました。



「武力では紛争を解決しない」とするなら平和構築のために何が必要なのでしょう。

### 静かに広がるフードバンク

「フードバンク」という言葉を聞かれたことがありますか？まだ食べられるのに手つかずで捨てられる食品は日本で年間600万トンを超えるそうです。米国発の「フードバンク」は賞味期限の迫る食品を引き取り、福祉施設や生活困窮支援団体に提供する市民活動です。日本でも今静かに広がっているそうです。広がる一方の格差社会は人を孤立させ、疲弊させ、ともすると排除社会へと向かいかねません。社会の中でともに力を合わせて共感の輪をひろげていく地道な取り組みは、戦争とは対極にあります。

### アフガニスタンの中村哲さんに学ぶ

また、干ばつのアフガニスタンに水路を開き、砂漠を緑の大地に変え、現地の人々が共に暮らせる社会をつくる活動を30年近く続けておられる中村哲さんにこそノーベル平和賞が贈られるべきであり、平和憲法を持つ日本の世界への貢献のヒントがあると思っています。「結みのお」の設立の基本理念は「平和のまちづくり」です。一人一人が自分で考え、一人一人の持てる力を発揮できる社会を創っていきましょう。

(中村哲さんの著書やDVDは結文庫にあります)

「結みのお」ではこの一年間に多くの会員さん同士の出会いがありました。その交流の輪をさらに広げていきたいと思っています。総会もその大切な場です。「参加してよかった!」と思っていたいただける総会にしたいと考えています。

#### 第10回 総会のお知らせ

日 時：2月24日(土) 13時30分～16時

13:30～14:30 第1部 総会

14:30～15:00 カフェタイム

15:00～16:00 第2部 交流会

場 所：中央生涯学習センター講座室(3F)

今回は「私のちょっといい情報」というテーマで交流会を開催します。

